

2015年4月23日  
三菱日立パワーシステムズ株式会社  
三菱重工メカトロシステムズ株式会社  
株式会社日立プラントコンストラクション

三菱日立パワーシステムズグループとして集じん装置の新会社を設立  
三菱重工メカトロシステムズと日立プラントコンストラクションの当該事業を統合して

三菱日立パワーシステムズ株式会社 (MHPS)、三菱重工メカトロシステムズ株式会社 (MHI-MS) および株式会社日立プラントコンストラクション (HPC) は 23 日、MHI-MS と HPC がそれぞれ手掛ける集じん装置事業を統合し、MHPS グループとして集じん装置の新会社を設立することで合意し、契約を締結しました。MHPS グループが展開する多様な AQCS (Air Quality Control Systems : 大気環境対策システム) 事業に集じん装置を加え、製品のフルラインアップ化をはかって AQCS 事業を一層強化するのが狙いです。3 社は近く、そのための準備会社を立ち上げる方針で、10 月 1 日の新会社発足を目指します。

新会社は、MHI-MS、HPC の集じん装置事業を分割・承継して、MHPS の 100%子会社として設立するもので、電気集じん装置を中心にバグフィルターそのほかの関連設備の製造・販売・アフターサービス事業を推進します。社名、本社所在地、資本金などは今後決定しますが、当初、従業員数約 240 人、事業規模約 150 億円の会社としてスタートする計画です。

今回の合意は、集じん装置事業の強化拡大に向け 3 社の思いが一致したことによるものです。MHPS は AQCS 事業として現在、脱硝装置、脱硫装置、ガス・ガスヒーター (GGH) 熱回収装置、GGH 再加熱器などを手掛けていますが、MHPS グループとしてこれに集じん装置を加え、AQCS のフルラインアップ化を実現します。また、MHPS が持つ海外対応力をフル活用することにより、課題となっていた集じん装置の海外展開を一挙に加速していく考えです。

さらに新会社は、MHI-MS、HPC 両社が持つ産業分野への強みを活用して、電力会社向け以外の分野でも競争力強化をはかるほか、アフターサービス事業も拡充させていく方針です。

集じん装置は、排気中の煤や粉じんなどを捕集する装置で、火力発電所のボイラー排ガス処理ラインなどに設置することにより、大気汚染の原因となる PM2.5 などの微小粒子を除去します。

AQCS 市場は、世界的な環境対策推進の流れを背景に、電力需要が旺盛なアジアなどの新興国向けを中心に今後も堅調な成長が予測されています。そのような中、MHPS は火力発電プラント事業の一環として AQCS 事業を展開していますが、AQCS を構成する主要機器である集じん装置は、三菱重工業と日立製作所のグループ企業がそれぞれ手掛けていました。今回の新会社設立は、これらを一つにまとめることで、集じん装置事業の強化とコスト競争力強化を実現し、AQCS 全体のサプライヤーとしてグローバル市場に打って出ることが必要だと判断したことによるものです。

MHPS、MHI-MS、HPC の 3 社は今後も、密接に連携しながら、新会社の今秋の発足に向け、必要な準備を協力して着実に進めます。

以 上

■ 本件に関するお問い合わせ先

三菱日立パワーシステムズ株式会社

担当 小野 電話：03-6716-2168 (三菱重工業 広報部 広報グループ)

三菱重工メカトロシステムズ株式会社

担当 小野 電話：03-6716-2168 (三菱重工業 広報部 広報グループ)

株式会社日立プラントコンストラクション

担当 土肥 電話：03-5208-9325 (日立製作所 ブランド・コミュニケーション本部  
広報・IR 部)

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---